

事例⑬

知的障がいのある生徒が達成感や成就感を味わえる授業の工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 学級の人数が少ないので、対話的な活動を行うことが難しい。
- 知的障がい学級で「対話的な学び」はどのように行えばよいのか分からない。

③ 対話的な学びを実現する授業づくり

ファーストステップ！

◆例えば、「国語科」で、こんなことからはじめてみましょう。

- ☐ 国語科「お客さんに分かりやすく品物のことを伝えよう」
- ☐ 中学校
- ☐ 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・ 品物について分かりやすく説明する文章を考えることができる。

ファーストステップ②

- ・ 話合いの流れやパターンを分かりやすく示すとともに、**教師が思考を深める問い返しを行い、対話の質を深めるように**しましょう。



【学習する際のポイントの明確化】

	学習活動	手立て／留意点
導入	○ 単元の計画及び本時の流れの確認	※ <u>前回の学習内容の振り返り</u>
展開	○ 本時の学習課題の提示 ○ 伝えたいことを考える ・ 個人思考～伝えたいことを付箋に書く。 ・ ペア学習～考えたことを発表し合い、まとめて文にしていく。 ○ 作成した文章の推敲 ・ 分かりやすいか、買いたくなるか等	※学習課題の板書 ※個の特性に応じた役割分担等の工夫
終末	○ 振り返り	※できたことを具体的に伝える。

ファーストステップ③

- ・ この時間で「何ができるようになったのか」を明確にし、次時の学習へ向かえるよう、**明確な評価規準や目指す子どもの姿を設定**しておきましょう。

ファーストステップ①

- ・ 生徒が主体的に学習に向かえるよう、これまでの**学習で身に付けたことを振り返り、今後の学習で身に付けることについて見通し**をもてるようにしましょう。



【特性に応じて付箋を活用】